



緑ヶ丘美術館のある奈良は、古くからやきものとの縁が深い場所です。

古くは土器や埴輪に始まり、徐々に祭祀用、日常使い用の数多の器が生産されるようになり、7世紀の後半には緑釉をかけた施釉陶器「白鳳緑釉」が焼かれるようになりました。そして8世紀に入ると、中国の「唐三彩」の影響を受けて三色の釉をかけた「奈良三彩」が登場。奈良は文化芸術としてのやきものが形づくられる舞台であり、文字通り咲く花のにおうがごとく栄えた「国の真秀ろば<sup>まほ</sup>」であったのです。

また、侘び茶の祖と言われ、当時の日本のやきものの素朴な美しさに関心を寄せた村田珠光は奈良の出身。江戸時代には、大和郡山で「赤膚焼」の窯が開かれ、そこでつくられた渋く深みのある器が、茶人通人の間で広く好まれることとなりました。さらに近代に入ると、色絵磁器を確立したことで知られる富本憲吉を輩出。時代を問わず、陶芸文化は育まれ続けてきたのです。

そして現在、この真秀ろばの奈良では多くの陶芸家が育ち、活躍しています。今回は、そうした奈良の地に居を構え作陶する現代陶芸家のうち、19名の作品を集めました。青瓷、青白磁、練り上げ、面取り、泥彩、織部、色絵、染付、鉄絵……用いる土や釉薬、技法、個々の来歴はさまざまですが、いずれも今、一線で活躍する作家たちです。伝統技法に革新の要素を加え、オリジナリティー豊かな表現へと昇華し生み出した作品は、とても見応えがあります。

奈良陶芸の最前線の技術や表現をご覧いただけるまたとない機会です。「奈良陶芸の今」を彩る作品の数々を、ぜひご高覧ください。

令和8年4月

緑ヶ丘美術館 館長 菅野一夫

2026 Ceramic Art Exhibition  
at Midorigaoka Art Museum  
in Nara, Japan

# 奈良 今 陶芸の7 2026

NA RA  
TO GEI

いくら こうたろう  
井倉 幸太郎

IKURA KOTARO



in 奈良市

せいはいくじせきしゅうぎ  
青白磁石舟器

H13.7×W66.8cm×D25.3cm

いとい やすひろ  
糸井 康博

ITOI YASUHIRO



in 王寺町

しょうさいき れん  
硝彩器「連」

H15.0×Φ50.0cm

いまにし まさや  
今西 方哉

IMANISHI MASAYA



in 奈良市

だいしぜん やくどう  
大自然のエネルギーの躍動

H34.5×Φ21.5cm

おぎの ますこ  
荻野 萬壽子

OGINO MASUKO



in 河合町

ねりあげつぼ  
練上壺

H32.0×Φ35.1cm

かつお たかこ  
**勝尾 孝子**

KATSUO TAKAKO



in 天理市

ぬのめでいさいはち  
布目泥彩鉢  
H19.0×Φ44.0cm

かなもと たくや  
**金本 卓也**

KANAMOTO TAKUYA



in 奈良市

おりべくりぬきかき  
織部割貫花器  
H38.0×W21.6cm×D22.0cm

すぎせ きみよし  
**杉瀬 公美**

SUGISE KIMIYOSHI



in 平群町

てつえさんきらいもんくみざら  
鉄絵山帰来文組皿  
H4.0×W45.5cm×D23.0cm

たけうち るり  
**竹内 瑠璃**

TAKEUCHI RURI



in 大和郡山市

やまざくら しゆき さくらが  
山桜の酒器「桜狩り」  
片口 H7.3×W16.5cm×D14.0cm 杯 H5.0×Φ5.5cm

たけだ あやこ  
**竹田 阿野胡**

TAKEDA AYAKO



in 広陵町

ぬのめでいさいもんかき しんりんよくつー  
布目泥彩文花器「森林浴II」  
H34.5×W28.0cm×D19.0cm

たに いちろう  
**谷 一郎**

TANI ICHIRO



in 生駒市

めんとりつぼ  
面取壺  
H40.5×Φ36.0cm

とよすみ かずひろ  
**豊住 和廣**

TOYOSUMI KAZUHIRO



in 奈良市

ふんδειこさいき てんびよう はな  
粉泥古彩器「天平の華」  
H29.0×W44.5×D33.5cm

なかはた としお  
**中畑 敏夫**

NAKAHATA TOSHIO



in 天理市

うすきじさんりようばち  
淡黄瓷三菱鉢  
H18.0×W44.7cm×D44.7cm

ひぐち くにはる  
**樋口 邦春**

HIGUCHI KUNIHARU

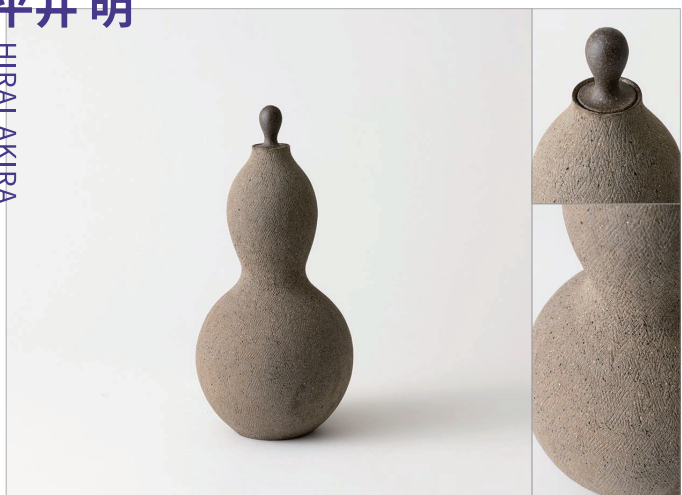


in 河合町

せいはいくじはち てんりゆう  
青白磁鉢「転流」  
H22.5×W48.0cm×D44.5cm

ひらい あきら  
**平井 明**

HIRAI AKIRA



in 田原本町

こくもんき ふくべ  
刻紋器瓢  
H30.0×Φ14.5cm

ほんだ あや  
**本多 亜弥**

HONDA AYA



in 天理市

そめつけほりはち はな さきかげ  
染付彫鉢「花の魁」  
H17.9×Φ36.3cm

みの だいすけ  
**見野 大介**

MINO DAISUKE

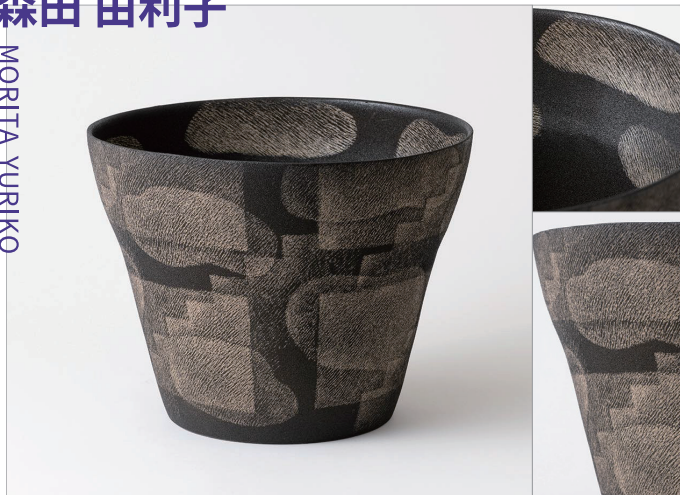


in 川西町

そうてんゆうおおばち  
蒼天釉大鉢  
H10.0×Φ36.0cm

もりた ゆりこ  
森田 由利子

MORITA YURIKO



せんびょうきかもんはないれ  
線描幾何文花入  
H27.0×Φ35.0cm

in 橿原市

やまなか たつじ  
山中 辰次

YAMANAKA TATSUJI



せいじしろ だえんかき あさ  
青瓷白ぼかし楕円花器「朝もや」  
H31.8×W36.5×D34.0cm

in 天理市

やまもと よしひろ  
山本 義博

YAMAMOTO YOSHIHIRO



いろえそめつけおばなもんはち  
色絵染付尾花紋鉢  
H14.0×Φ40.0cm

in 高取町

## 奈良陶芸の今<sup>IMA</sup>2026

発行	2026年4月26日
発行者	菅野一夫
発行所	緑ヶ丘美術館 〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 2731-10
印刷・製本	江戸堀印刷所
プロデューサー	菅野一夫
アートディレクション	桶谷涼帆
編集・デザイン	桶谷涼帆
撮影	久保佳正
コーディネーター	細見泰弘
制作スタッフ	菅野貴代・西川裕香子

MAM-ANNEX  
Midorigaoka Art Museum  
緑ヶ丘美術館・別館



©Midorigaoka Art Museum 2026  
本誌の制作物は著作権で保護されています。無断転載を禁ず。



井倉 幸太郎  
糸井 康博  
今西 方哉  
荻野 萬壽子  
勝尾 孝子  
金本 卓也  
杉瀬 公美  
竹内 瑠璃  
竹田 阿野胡  
谷 一郎  
豊住 和廣  
中畑 敏夫  
樋口 邦春  
平井 明  
本多 亜弥  
見野 大介  
森田 由利子  
山中 辰次  
山本 義博



MAMI-ANNEX  
Midorigaoka Art Museum  
緑ヶ丘美術館・別館

